

A帯ワイヤレスマイク 新周波数対応機器試用 実績に関するレポート

Vol. 7
2015.05



A型ワイヤレスマイクの新周波数帯移行関連の情報に関しては、(一社)700MHz利用推進協会のHPや、全国で実施しましたテスト会等におきましてお伝えしてまいりましたが、今回新機器を実際にお使い頂きました感想や周波数移行に関する率直な思いを伺える機会がございましたので、その内容を皆さんにお届けいたします。このレポートが、免許人の皆様において、周波数帯移行に関する手助けになれば幸いです。

一般社団法人700MHz利用推進協会

インタビュー：一般社団法人700MHz利用推進協会



電波法の改正により定められた「特定ラジオマイク(A型ワイヤレスマイク)」の新周波数帯への移行。「特定ラジオマイク(A型ワイヤレスマイク)」は2019年3月31日までに、ホワイトスペース帯(470~710MHz)/特定ラジオマイク専用帯(710~714MHz)/1.2GHz帯(1240~1260MHz)のいずれかの帯域に移行しなければならぬ。しかし多くの使用者にとって、使い慣れた機材や旧周波数帯からの移行は、頭では理解していても、おいそれと実行できていないのが実情だろう。

そんな中、いち早く新周波数帯への移行を済ませたのが、大阪の〔fun time BONILLA〕だ。〔fun time BONILLA〕は、約17年前に尼崎で小さなライブ・ハウスとして開店し、現在は阪急梅田駅からほど近いビルの地階で営業を続けるカフェ&レストラン。懐かしいポップスの生演奏を堪能しながら、美味しいお酒と食事を楽しむことができる通好みのお店として、関西の洋楽好きのミドル・エイジの間ではちょっとした人気スポットになっている。そんな〔fun time BONILLA〕は、約1年前に店内で使用しているワイヤレス・システムを更新、新周波数帯への移行を完了した。多くのライブ・ハウスが新周波数帯への移行を躊躇する中で、同店はなぜいち早く移行を済ませることができたのか。その理由や、新周波数帯のワイヤレス・システムの使用感について話を伺ってみることにした。対応していただいたのは、〔fun time BONILLA〕のプロデューサー、牛根芳樹氏である。

■良質なポップスの生演奏を楽しむことができるカフェ&レストラン、〔fun time BONILLA〕

——はじめに、〔fun time BONILLA〕さんの沿革をおしえていただけますか？

牛根氏 〔fun time BONILLA〕は、阪急梅田駅からほど近いビルの地下にあるお店で、ライブ演奏を聴きながらお酒や食事を楽しむことができ

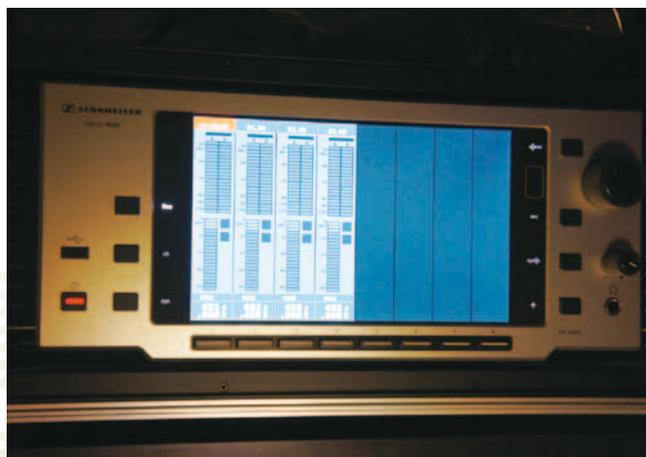
フェ&レストランです。もともとは約17年前に大阪・尼崎で、30人ほどのキャパの小さなライブ・ハウスとしてスタートし、何年か後に別の場所に移転した後、約9年前にこの場所に移ってきました。現在のキャパは100名ちょっとという感じですね。

営業のスタイルとしては、お店にレギュラーのバンドがいるので、お客さんからのリクエストに応える形で彼らが楽曲を演奏しています。音楽の傾向としては、以前はアメリカン・ポップスを中心だったんですが、最近はビートルズの楽曲を中心に演奏していますね。定期的に『Bonilla Beatles Night』というイベントも開催していて、こちらでも大変好評です。お客さんの年齢層は20代から70代まで幅広い感じですが、全体的には年齢層高めですね。

——店内は音響的な施工がしっかり施されている感じですね。

牛根氏 この物件を契約したときは完全なスケルトン状態だったので、施工はけっこう大変でしたね。また、照明を含め、機材を揃えるのも少し苦労しました。しかし営業開始後は、活躍されているタレントさんなどに箱貸しすることも考えていたので、それなりの投資をして工事や機材の設置を行いました。特にこの建物はホテル・ビルなので、防音には気を遣いましたね。天井厚は750mmあったので上の防音は必要なかったんですが、壁の側面の防音がけっこう大変だったんですよ。また、ステージの位置も試行錯誤して、音の回り込みを避けるためにコーナーに配置しました。

音響機材に関しては、ここに移転する際にほとんど新調しました。コンソールはMIDAS VENICE F-32を導入したんですが、これはマイクの性能が良くなったので、卓もそれなりの性能を持ったものにしなればよかったからですね。今はデジタル・コンソールが全盛ですが、個人的にはアナログ・コンソールのEQの使い勝手が好きなので、MIDAS VENICE F-32を選定しました。





——ワイヤレス・マイクに関しては、ずっと使用されているのですか？

牛根氏 そうですね。実は宝塚歌劇団の関係者といった方々にもご利用いただいているので、ワイヤレス・マイクは必須なんです。ワイヤレス・マイクが無いと、出演者のパフォーマンスに影響してしまいますからね。以前の場所ではB帯のワイヤレス・マイクを計12波運用していたんですが、ゴスペルなどのライブでマイクの本数が多いときは、よく混信のトラブルがありました。そんなこともあり、ここに移転するタイミングで、A帯のワイヤレス・マイクを計4波導入したんです。A帯で運用し始めてからは何の問題もありませんでしたね。ここは梅田の駅から近く、たまに周辺でテレビ局がロケをすることがあるので、そういうときは帯域が被らないようにすることを注意しました。この店くらいの規模でA帯のワイヤレス・マイクを運用しているのは珍しいと思うんですが、ワイヤレスがA帯と知って安心するアーティストさんも多いです、それによってお店の信頼度も高めることにも繋がっているのではないかと思います。

■約1年前に新周波数帯のワイヤレス・システムを導入し、いち早く運用

——最初にワイヤレスの新周波数帯への移行の話を聞いたときの印象はいかがでしたか？

牛根氏 最初に業者さんから話を聞いたのは、確か一昨年のことだと思うんですが、そのときは機材を買い替えたりいろいろ大変なことになりそうだ

なという印象でした。特にコスト面はどうなるんだろうと心配でしたね。また以前、デジタルのワイヤレス・システムを使用した際、タイム・ラグが酷かった経験があるので、そのことに関して不安でした。デジタルでなおかつ新周波数帯への移行、やらなければならないこととはいえ、かなり心配だったのは事実です。

——しかし(fun time BONILLA)さんは既に新周波数帯への移行を完了しているそうですね。

牛根氏 はい。業者さんをお願いして、デモ機をお借りしてここで試してみたんですよ。そうしたら以前気になったタイム・ラグの問題は無く、それまでに使用していたA帯のワイヤレス・システムと比べて使い勝手の面でも遜色無かったので、これだったら早く移行してしまった方がいいのではないかと、思って更新を決めました。導入費用の補償もありましたからね。導入したのは、SENNHEISERのD9000で、既に1年ほど使用しています。

——このお店は繁華街の中心にあるわけですが、実際に運用されて問題は無いですか？

牛根氏 まったくありません。バッテリーも非常に安定していますし、トラブルとは無縁で運用できています。これまでのA帯のワイヤレス・システムと何ら変わらないですね。

——音質面や使い勝手はいかがですか？

牛根氏 先ほども言ったとおり、デジタルのワイヤレス・システムにはあまり良い印象が無かったんですが、音質は格段に良くなりました。具体的には特性がフラットなので、コンソール側でこちらの好きなように音を作ることができるんです。これまで出演していただいた歌手さんも、従来のワイヤレス・システムと比べて、声をよく拾ってくれるので歌い上げるのも楽になったと言っていますね。それとマイクの指向性が非常に高いところも気に入っています。ステージ上の他の楽器をほとんど拾わないので、オペレーションがとてもしやすくなりましたね。

新周波数帯に対応したデジタル・ワイヤレス・システムに移行して、まさに良いことづくめなんですが、唯一の問題があるとするなら導入したSENNHEISERのD9000の値段が高いことでしょうか。現状はまったく問題無いのですが、万が一落下させて修理ということになったら、ヘッド交換だけでもかなりの金額になりそうですから(笑)。だから出演者には“くれぐれも気をつけて扱って。もし落としたり弁償だからね”と言っています(笑)。

